

第6次総合計画 基本構想「めざすまちの姿」 検討シート（②観光・産業）

（1）市民ワークショップ「タカラ ミライ ラボ」提言書

めざす まちの姿	“にぎわい”を創り続けるまち
実現した ことを確認 する方法	<ul style="list-style-type: none"> ・ 市内で買い物・飲食をもっと楽しんでいる。 ・ 西谷に行きたいと思う人が歌劇を観に行きたいと思う人と同じぐらい増えている。 ・ 市民も市外の人、まち（市街地・西谷地域）の情報をよく知り、利用している。

（2）主な社会経済動向

人口減少と少子高齢化

- ・ 生産年齢人口（15～64歳）の減少
- ・ 高齢者の増加

地方創生

- ・ 地方における安定した雇用の創出

持続可能な開発目標（SDGs）

- ・ 経済、社会、環境の統合的向上

景気の動向

- ・ 近年は緩やかな回復傾向、一方、地域による格差や内需の弱さ

産業

- ・ 地方圏では労働集約型サービス業（卸・小売、運輸、医療・福祉など）が多く、労働生産性が低い

雇用形態や就業形態の変化

- ・ 生産年齢人口の減少に伴う労働力不足、有効求人倍率は上昇
- ・ 非正規雇用者の増加による収入格差の課題
- ・ 女性や高齢者の労働参加の拡大、外国人労働者の増加

観光立国の実現

- ・ 外国人観光客数の増加
- ・ 2021年ワールドマスターズゲームズ、2025年日本国際博覧会（大阪・関西万博）の開催

犯罪被害等

- ・ 特殊詐欺被害が増加傾向

高度情報化社会の進展

- ・ ICTの普及
- ・ AIやRPAをはじめとする先端技術の普及

価値観やライフスタイル、地域社会の変化

- ・ 働き方改革などによるワーク・ライフ・バランスへの意識の高まり
- ・ シニア世代の自己実現や社会貢献への意識の高まり
- ・ 共働き世帯の増加
- ・ グローバル化

（3）主な宝塚市の現状認識や特性

人口

- ・ 10歳未満と30歳代で特に転入超過が多い
- ・ 20歳代で特に転出超過
- ・ 昼夜間人口比率はかなり低い
- ・ 市外転出の理由上位「買い物や余暇活動に不便だから」

観光

- ・ 阪神北地域内にある主要観光地の多くが宝塚市に立地
- ・ 外国人観光客は増加傾向
- ・ 宿泊を伴わない「安・近・短」の観光客が中心で、個人型での観光客が多く、リピーター客が多い
- ・ 「宝塚歌劇」により都市イメージが明確に確立されている一方、「手塚治虫」や「温泉」、「神社仏閣」などその他の資源の認知が弱い

商業・サービス業・工業

- ・ 事業所数は横ばい、従業者数は微増
- ・ 事業所数上位「卸売、小売業」、「医療、福祉」、「宿泊業、飲食サービス業」
- ・ 従業者数上位「医療、福祉」、「卸売、小売業」、「宿泊業、飲食サービス業」
- ・ 人口一人あたり小売業年間商品販売額はかなり低い
- ・ 趣味性・ファッション性が高い品や高級品などの購入場所は市内18.5%と市内での購入する割合が低い

農業

- ・ 農家戸数は年々減少、耕作放棄地は増加
- ・ 年齢階級別農業従事者数は50～70歳代前半が多い
- ・ 担い手、後継者不足
- ・ 農地の資産保有的意識が強く、稲作を中心とした副業的農家が大半
- ・ 人口減少等により開発圧力が低下しつつある現在においても、宅地化による都市農地の減少に歯止めがかからない

雇用・勤労者福祉

- ・ 30～70歳代の女性就業率が増加傾向
- ・ 自市内従業割合は低い（33.6%）

消費生活

- ・ 消費生活相談の相談件数は概ね横ばいで推移
- ・ あらゆる世代に応じた総合的かつ体系的な講座等の企画や支援が必要

（4）めざすまちの状態

- （ 観 光 ） ・
- （ 商 業 ・ サ ー ビ ス 業 ・ 工 業 ） ・
- ・
- （ 農 業 ） ・
- （ 雇 用 ・ 勤 労 者 福 祉 ） ・
- （ 消 費 生 活 ） ・